

通訳案内士試験道場 韓国語で学ぶ日本⑱道

- ①美しい筆遣い
- ②人生の「道」を求める/究めるという意味で

柔道

- ①柔道には突きや蹴りがなく、
- ②背負い投げなどの投げ技や寝技（押さえこみ）
- ③前線での接近戦を想定して
- ④「柔よく剛を制す」すなわち柔らかさ/しなやかさが強さを制するという東洋哲学
- ⑤勝敗を中心とした/勝ち負け本位の/勝てばいいという「術」に自己の内面を極めようとする「道」という概念をつけたし（付け加え）
- ⑥道着の上にぎゅっと帯をしめてから、頭を挙げて気をつけの姿勢で、あるいは正座して礼儀を正すことから学ぶのだ。
- ⑦受け身の様々な型
- ⑧むやみに/中途半端に高いレベルの技を学ぶよりも、基本の型をしっかりと学び、基礎をかためたらそれを状況に合わせてアレンジし、黒帯をとることができるのだ。
- ⑨「道」という語尾がつく諸武道
- ⑩外とは違う世界であるというけじめをつけるため
- ⑪また腕立て伏せと腹筋運動をしていたら
- ⑫どんなに抵抗しても大会で連覇した相手の攻撃を防げず、しごかれているようだった。
- ⑬「道」を究めようとする（追い求める）人が技だけを磨く人に及ばない場合もありますが、
- ⑭技ばかり身につける人よりも、道を学んだ人のほうが「七転び八起き」すなわち挫折した/つまづいたときも立ちあがる方法が身につきますからね。
- ⑮車の両輪/二つで一つ

茶道

- ①手に汗握る/ハラハラさせるチャンバラシーン/大立ち回り
- ②剣道の面、竹刀だけを持って
- ③英語ネイティブのグレッグさんは右も左もわからない/土地勘のない東京に来てすぐ
- ④茶色のあごひげを蓄えた（生やした）グレッグさん
- ⑤二兎を追おう（二足のわらじをはこう/一石二鳥をねらおう）としていました。
- ⑥師範代になっていたにもかかわらず、
- ⑦むやみに追い求めると「道」が遠のくから、いっそ君がまるで磁石のようになり「道」を引き付けられるときまで一つのことに精進/専念しながらまちなさい。

- ⑧それまでの生活に飽き足らず、武道家になる夢を一旦/とりあえずあきらめ
- ⑨茶道に関わる人が多く住む京都に住まいを移したのだ
- ⑩生まれつきそうだったのか、人の言うことなど意に介さず、仕事をしないでもっぱら茶道だけをしたので、
- ⑪三畳の狭い部屋で段ボール箱を机兼ちゃぶ台/お膳代わりにして、パンの耳をかじりながら
- ⑫ものもいよいよ角が立つことをわかっているの、言いつらいことははずけずけ言わずに語尾を濁し、遠まわしに言う場合が多いんです。
- ⑬概して（おしなべて）押しつけがましいことを言うのはあつかましいと思われ、
- ⑭時にはホームシックにもなりましたが、
- ⑮「住めば都」
- ⑯お互いを察し、案ずること（気遣い）こそ茶道の哲学
- ⑰清貧ながらも満ち足りた生活
- ⑱「道」を究めようとする（追い求める）ことにこだわる（執着する）より、素直に受け入れる心が大切だということです。
- ⑲お客様とお別れした後も緊張を解かず、心の中でもお客様を見送るのとよく似ています。
- ⑳それこそ神出鬼没で、京都の狭い脇道の隅々までよく知っている。
- ㉑年はごまかせず、「メタボ」予防のために毎日ジョギングをしているからだ。

一期一会

- ①仏教では、この世は無常だと説く。
- ②生きとし生けるもの全てがお互いに関わりあい、頼りあいながら存在するのだ。
- ③亭主と客の人生に一度しかない出会いという意味で、二度とはないこの瞬間の出会いを大切にし誠心誠意、茶道に臨めという意味だ。
- ④自然とお客様自身が節度をわきまえるのだ。

生け花と華道

- ①十九世紀終わりごろになってからだ。
- ②「良妻賢母」になるための教養/花嫁修業として女性たちの間に広まっていき、居間や客間だけでなく、玄関などにも花を生けるようになった。
- ③日常生活に豊かさやゆとりを感じさせ/もたらしてくれる。
- ④剣山を花器において花や枝の下の部分をその針にさして固定させ、その立体的な姿で「天地人」を表現することで

武士道

- ①高麗時代の崔氏武臣政権と時を同じくするが、
- ②神道の誠（清き明き心）を土台にし、「色即是空、空即是色」という禅宗の無常観/はかなさと「仁義礼智」など儒教の道德概念をつけたし（つけ加え）たものだ。
- ③それは新羅時代の「花郎」すなわち貴族たちが儒教や仏教、道教を合わせて「花郎道」にしたのと似ている。
- ④「四書五経」を学び、科挙を受けた両班と「大蔵経」を学んだ僧侶
- ⑤武士たちの「バイブル」と考えられた「葉隠」には「武士道とは死ぬことと見つけたり」という名言があり、多くの武士たちの座右の銘となった。
- ⑥それを何の価値もない「犬死に」だとして生を求めるのは腹（器）の小さいものがすること、恥ずかしく（みっともなく）、世間に顔向けできないという意味だ。
- ⑦平常心を忘れずに潔く運命を受け入れなければならない武士たちは韓国人の目にはともすれば（ややもすれば）残酷に見える「切腹」を選んだのだ。
- ⑧おいそれと/気軽に本音を言わないで腹の底にしまうことがあるべき姿としてきた。
- ⑨いわれのない（あらぬ）疑いをかけ（痛くもない腹を探）られた場合であっても、言い訳もしないで、自分の真心を見せるのが武士の誇りであり、鑑だったのだ。
- ⑩副将軍の地位を隠し、忠実な連れの者たちとともに隠密で/お忍びで諸国を行脚しつつ実情を調べ、汚職だらけの悪代官の不正腐敗などを暴く勸善懲悪の物語
- ⑪公衆の面前（公の場）で辱めを受け、刀で敵の額を切りつけた後で切腹させられた主人のため、四十七人の忠臣たちが力を合わせて仇討ちする復讐劇である。
- ⑫「義士」の代名詞はすなわちこれら四十七士（赤穂義士/浪士）をさすほどだ。
- ⑬欠点を補って余りあるといえ、
- ⑭それこそ阿鼻叫喚（大パニックの状況）で
- ⑮町民たちに津波が押し寄せてきたことを放送し続けつつ亡くなった南三陸町役場の女性職員など
- ⑯命に代えても正義をなすという精神を発揮する人々の道德観念
- ⑰九死に一生を得た人たちは泣き出したいのをこらえて犠牲者を追悼し/いたみながらも、山積みになった家屋のがれきや遺体などの後片付けをしているが、
- ⑱哀しみを押さえて黙々と

韓国語で学ぶ日本⑱道 単語表現帳 氏名

①筆遣い <small>みでづかい</small>	
①柔道には突きや蹴 <small>け</small> りがない/②背負い投げ	
②投げ技/寝技/③前線/想定する	
④柔よく剛を制す/⑤付け加える/	
⑥ぎゅっと結ぶ/頭を挙げる/気を付けの姿勢	
⑦受け身の型/⑧むやみに/基礎を固める	
⑧黒帯を取る/⑨語尾/諸武道/	
⑩けじめをつける/⑪腕立て伏せ/腹筋運動	
⑫連覇 <small>れんぱ</small> /しごかれる/⑬道を究める/	
⑭七転び八起き/立ち上がる方法が身につく	
⑮車の両輪	
①ハラハラするチャンバラシーン②面 <small>しな</small> い/竹刀	
③英語ネイティブ/右も左もわからぬ東京	
④あごひげを生やす/⑤ <small>にと</small> を追う/⑥師範代	
⑦むやみに追い求める/一つの事に精進 <small>しょうじん</small> する	
⑧そんな生活に飽き足らず/夢を一旦諦める	
⑨茶道に関わる人/⑩生まれつきそうなのか	
⑩人の言うことも意に介さず/もっぱら	
⑪三畳の部屋/段ボール箱/パンの耳	
⑫物もいよいよで角が立つ/ずけずけ言う	

⑫語尾を濁す/遠まわしに言う/⑬概して	
⑬押しつけがましい/厚かましい	
⑭ホームシックになる/⑮住めば都/⑯察する	
⑯気遣う/⑰清貧ながらも満ち足りた生活	
⑱素直に受け入れる/⑲見送る/⑳神出鬼没	
㉑脇道/㉒メタボ/ジョギング	
①この世は無常だと説く/②生きとし生ける物	
③一期一会 (30字前後の韓国語で説明せよ)	
④節度をわきまえる	
②良妻賢母 <small>りょうさいけんぼ</small> /花を生ける/	
③ゆとりを感じさせる/④剣山を花器におく	
①時を同じくする/②清らかな心/	
④科挙を受ける/⑤バイブル/座右の銘	
⑥犬死に/みっともない/世間に顔向けできぬ	
⑦潔 <small>いさぎよ</small> く運命を受け入れる/ともすれば/切腹	
⑨痛くもない腹を探られる/	
⑨真心を見せる/武士の誇りであり鑑 <small>かがみ</small> だ	
⑩お忍 <small>しの</small> びで諸国を行脚し実情を調べる人/ 汚職だらけの悪代官	
⑩不正腐敗を暴く/⑪公の場で辱 <small>はずかし</small> めを受ける	
⑪仇討 <small>あだうち</small> /⑬欠点を補って余りある/⑭阿鼻叫喚 <small>あびきょうかん</small>	

⑮町民に津波が押し寄せたことを放送する	
⑮町役場の女性職員/⑯命に代えて正義をなす	
⑰九死に一生を得た人/泣き出すのをこらえる	
⑰山積みになった家屋のがれき/遺体の片づけ	